～あれから12年～

東日本大震災ボランティア視察研修会

東日本大震災発生から10年目にあたる2年前、福島県の訪問を計画したが新型コロナウイルス感染症の影響によりやむなく中止。

そして、5月8日より新型コロナウイルスは感染法上第5類への移行となり、平成23年6月に福島県南相馬市社会福祉協議会へ4日間延べ81名のボランティア活動バスを運行した当時の参加者から再び南相馬市を訪れたいと意見が寄せられました。

参加者の意思を尊重し被災地を訪れ震災を決して風化させない事、そして被災地が未来に向かって行っている防災教室事業の研修を目的に6月23日実施しました。

南相馬市社会福祉協議会視察研修では、佐藤所長より「災害・防災・地域福祉」をテーマに東日本大震災、令和元年台風19号災害、令和4年福島沖地震災害の三度の災害経験について説明いただきました。その都度違う対応の難しさや当時のボランティア活動に参加された方々の様子を交え復興への道のり、さらに経験を生かした住民のニーズにあった地域福祉の取り組みについてもお話くださいました。

また、震災遺構の浪江町立請戸小学校を視察し、当時の津波の威力を体感され、参加者もそれぞれ思い思いに過ごされました。

参加者からは、当時のボランティア活動を振り返る会話や「本当に参加してよかった」「災害はいつどこで起きるかも分からない」など改めて災害についても考える研修となったようです。